

東路山 積善寺

浄土宗 西山禅林寺派(本山永観堂禅林寺)

〒621-0036

亀岡市稗田野町柿花中道 54 (0771)23-3314

京阪京都バス国道柿花下車 徒歩 10分

積善開基 御堂関白藤原道長

道長公の父藤原兼家〔法興院殿如實大居士、正暦元寅年7月2日(990年)没〕の菩提を弔う為、990年天台宗の寺として開基、玄勝和尚を開山とし、建立された古刹

積善中興開山 無極壽量上人

平安時代末期浄土宗の開祖源空和尚【法然上人】の弟子無極壽量上人は浄土宗に改宗し再興する〔建仁三亥年6月16日(1203年)没〕 本堂横に宝篋印塔がある(南北朝時代作)



積善寺本堂



錦秋の表参道

本堂は、過去二度の火災に遭い 慶応3年の際には多くの寺宝も焼失する

現在の本堂は昭和5年(1930年)5月に完成された

檀徒総代述によると

“名既積善ト云ウ善ヲ積ムハ是レ仁ナリ 仁ヲ以テ堂ニ名ケ爰ニ相會シテ仁風ヲ興サントス”



本尊 阿弥陀如来
鎌倉時代の仏像



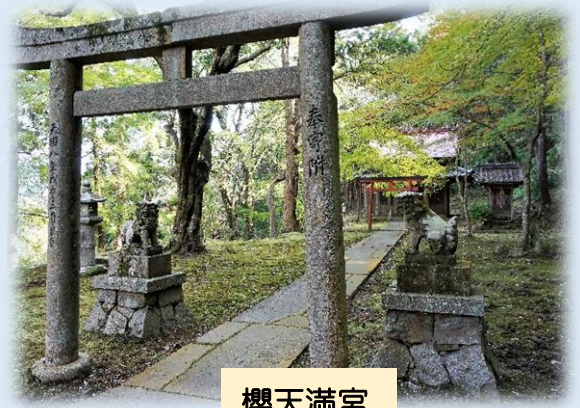
廣開浄土門

維時 文化五戊辰四月(1808年4月)上棟
天下和順日月清明 風雨以時災属不起
國豊民安兵戎無明 崇徳興化務修禮讓

棟木より

櫻天満宮

この社は積善寺の境内地に鎮座し、お寺の守護神として 天満自在威徳天神(菅原道真公)をお祀りする



櫻天満宮

木版 櫻天満宮略縁起と 桜石

菅原道真公の近臣に山内村鹿谷の高田若狭介正期たか だわかのすけまさときという忠義者がいた。正期は延喜元年(901年)太宰府に左遷された道真公から桜樹を形見として賜り、郷里の鹿谷に持ち帰り植える。その年は花を咲

かせたが、翌年は葉ばかり。不思議に思った正期は菅原公の身を案じ太宰府まで行き、無事の再会を喜ぶ。道真公は正期の主君を思う忠節にいたく感激され、土で自刻像を造り再び形見として正期に授けた。正期は鹿谷まさときに帰り、独鈷抛山とこなげさんの麓に社殿を建立し祀る。

その後、建久元年(1190年)積善寺中興開山の祖 無極壽量上人の夢枕にしばしば菅原道真公が立たれたことから、独鈷抛山麓から積善寺境内に社を移し、お祀りするようになる。このことがあってから、この地に、桜の花模様の石(桜石)が出るようになったといわれ、



国の天然記念物 桜石

『奇なるかな、桜の精霊樹下の巖に形を顕す。是全く神慮により、樹は枯れ朽ちるが故に、岩石に花の紋を残し奉るところなり』故に桜石天満宮と称し奉る。山に詣て御愛石拝覧して不審をはらし所願成就達せん事を。これ菅公の御本誓御神徳というべし。

無極上人 丹波亀山ヨリ一里西 山内村 開花 略縁起より。

桜石きんせいせきしやう(堇青石仮晶)は、今から一億五千年前に堆積してできた真岩に 約七千度のマグマが接触して、岩中に含まれていたアルミナ、マグネシア、ケイ素等の鉱物が溶け出して再結晶したもので、どこを割っても美しい花弁状の模様が現れ、大正12年国の特別天然記念物、平成27年京都府の石、平成30年に亀岡市の石に指定されている。



幾歳の心つくしの桜樹も

流れ行く身の面影となれ

櫻天満宮略縁起より

太宰府に左遷される時に 道真公が近臣の正期に形見として桜樹と共に贈った歌



山内や石も花咲く積善寺

大悲の徳の勝るしるしぞ

櫻天満宮略縁起より

無極上人の御歌